

明石市役所で幹部によるパワーハラコメントが発覚しました。調査の結果、10人の部下に対してのセクハラ、パワーハラ行為が確認され、加害職員は停職6カ月の処分を受け依願退職。これまでの問題点や今回の対応、今後の再発防止策について本会議で議論しました。

驚くほどの内容

5月に公表された事案は、3月16日に開催された友好都市との宴席において、当時明石市の部長であった職員が酒に酔った状態で部下に対して背後から足蹴りをしたというものでした。市としては加害職員を市民生活局部長から総務局参与に異動し、その職員による他の事案がないか調査しました。

その結果、当初の暴行事案以外に、「プロレス技のヘッドロックをかけた」、「顔に殺虫剤を噴射した」、「頬を平手打ちした」、「女性職員を食事や旅行に誘った」、「お前が休んだほうが世のため人のため、と人格否定発言をした」など大量の被害が確認されました。

市は停職6カ月の処分を行い、本人は同日付で依願退職、市長と副市長は10%の減給を3ヶ月(市長)と2ヶ月(副市長)とし、再発防止策を策定するチームを8月に設置しました。

見過ごした予兆

今回の事案だけを見ると、加害職員の問題ですが、組織の責任という観点で調査すると、明石市の問題が見えてきます。

- ① 昨年度に部下2名が相次いで療養休暇を取っている。
- ② 明石市職員労働組合は、昨年市長

や局長に対して加害職員の言動を相談・進言している。

③ 昨年12月に別の事案(部下から提出を受けた資料に対して指示を出す)に突き返し、「好きにしろ」など発言で口頭注意を受けている。

本来なら、パワーハラ等のリスクが高い職員には、相応のプログラムを受講させる責任が市にあると考えます。加害職員の行為は許されるもの



ではありませんが、明石市としてこれを防止する対策が不十分だったことは否めません。被害者も加害者も生まない職場にすることが何より重要です。

十分な対応なのか

今回の調査は、平成28年度、29年度に関わりのあった職員が主な対象です。ところが、それ以外の職員からパワーハラレポートとも呼べる報告が出されています。つまり、2年間の関係職員以外にも聞き取りが必要と

いうこと。今回の加害職員以外からのものも含め、市役所内全員を対象にしたアンケートが必要です。

これまで、部署毎に職場の相談を受ける職員を定めるリスナーという制度を設けていましたが、そのリスナーに集まった情報が報告されるのは翌年度になります。これは早期に組織的に対応できる制度に見直しを図ったと答弁がありました。これについては改善を評価していません。

以前、明石市役所内での不祥事では、市長が「実態解明」、「膿を出し切る」と力強いリーダーシップを発揮されています。この度のパワーハラ事案でも、「職場からパワーハラを撲滅する」と宣言し、絶対にパワーハラを許さない姿勢を示していただきました。良かったです。今回はそれに至りませんでした。

明石市はどんな職場ですか？

学生の就職先としても明石市は人気があります。インパクトのある職員募集ポスターや、「公務員試験対策は不要」といったフレーズが目を引きますが、「どんな職場か？」も大事です。

大阪府泉大津市の南出市長は39歳の青年市長で、「一人の百歩ではなく、百人の一步」を掲げられています。素敵な言葉であり、市長の考え方が伝わります。

学生に「明石市役所はどんな職場ですか？」と問われたときに、「大都市の規模感と、小さな自治体の身近さの両方があり、職員みんなが市民のために働く」という思いを持っています。あなたの力を伸ばし、発揮できる環境なのでお勧めしますよ。」と答えられるようにしたいですね。

月イチ！報告会



お気軽にご参加ください!! 予約不要、参加無料 遅刻・退席も大丈夫です!

9月30日(日) 10:00～12:00

場所 ウィズあかし学習室 703
テーマ 「政治に参加しにくい理由」

マスコミが報じるほど、市民や若者の政治への関心が低いとは思いません。しかし、政治って？参加するとは？という現実的な第一歩への情報と機会が少ないと思っています。中西事務所インターンの大学生と一緒に、政治参加って何？どうやってするの？を話し合います。

10月31日(水) 14:00～16:00

場所 ウィズあかし学習室 702
テーマ 「こうしたい、明石」

明石市の取り組みに対してたくさんの意見をいただきます。人によって「こうしたい！」は異なり、何が正解と言えるものではありません。しかし、政治家は多くの人の「こうしたい！」を聞くことが重要です。教育、観光、議会、産業、文化など、どんなジャンルでも構いませんので、「明石をこうしたい」を出し合ってみましょう。